

子供たちに伝えたい 日本の良さ

東京都教育庁指導部指導企画課
教育経営・教育課程担当

日本の伝統芸能

日本の伝統芸能は、伎楽や雅楽などが中国大陸から流入し、従来からあった日本固有の神事や民俗芸能に影響を与え、次第に生活と深い関わりをもちながら発展を遂げて行きました。そして、平安の貴族文化、鎌倉・室町の武家文化を経て、江戸になり庶民の文化として、人形浄瑠璃（文楽）や歌舞伎が根付いていきました。普段はあまりなじみのない伝統芸能も、その歴史や見どころを知れば、もっと身近に感じられるはずです。

今月は、日本の伝統芸能について御紹介します。

かぶき 歌舞伎



東京都江戸東京博物館常設展示室「助六の舞台」模型

歌舞伎は江戸幕府が開かれた 1603（慶長 8）年、出雲大社の^{みよ}巫女お国と名乗る女性が京都で踊った「かぶき踊」が始まりといわれています。「かぶく（傾く）」が名詞化したものだといわれ、

歌は音楽性、**舞**は舞踊性、**伎**は演劇性

を意味しています。元禄（1688～）時代になり、現在のような演劇としての歌舞伎が確立されました。

歌舞伎は、400 年以上の長い歴史の中で、伝統を守るだけでなく、それぞれの時代で常に磨かれ、新たな工夫も取り入れながら、現在も多くの人に愛され続けており、日本だけでなく、世界の人々をも魅了しています。

みえ 見得

歌舞伎の独特な演技の一つに「見得」があります。演技の途中で動きを止めてポーズをとることで迫力が増して力強い印象を見る人に与えます。

くまどり 隈取

「隈取」は、役により色を使い分けるお化粧の仕方のことです。例えば、赤は勇敢なヒーロー、青は悪役のボスというように使い分けます。役者は演じる役に合わせて自分でお化粧をします。

中村座

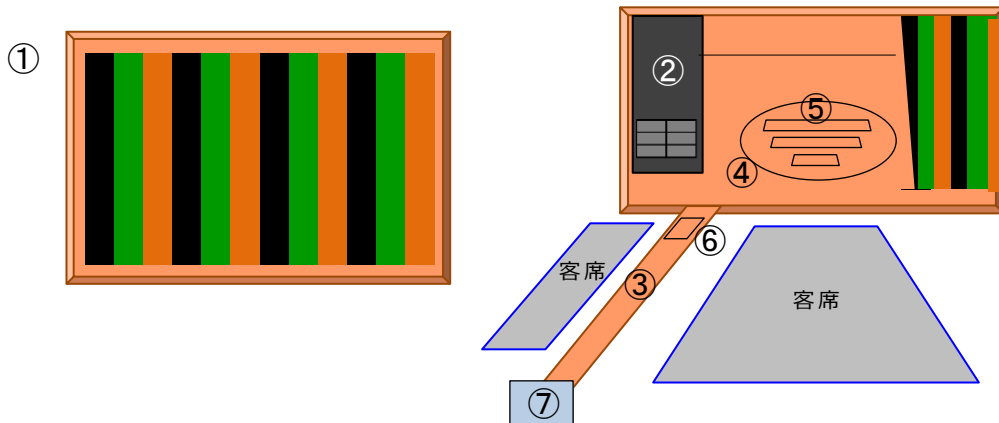
江戸時代の代表的な歌舞伎の芝居小屋である中村座の正面部分を、原寸大の間口 11 間（約 20 メートル）、奥行 3 間（約 5.5 メートル）で復元しました。当時、このような芝居小屋では、庶民も大名も、日常を忘れて歌舞伎の世界に心を遊ばせました。



東京都江戸東京博物館常設展示室「中村座」

舞台の仕掛け

歌舞伎の舞台には、いろいろな仕掛けがあります。演技を助けたり、お芝居を進めたりするのに、それぞれの役目をもっています。江戸時代の中ごろに歌舞伎が進化し、お話の中にいろいろな人が登場して多くの場面が描かれる芝居が作られるようになっていきました。そのような複雑なお話を進めるために、舞台の仕掛けを工夫することによって、歌舞伎は幅広い表現ができるようになりました。舞台に向かって右側を「上手（かみて）」、左側を「下手（しもて）」と言います。



①～⑦の名前と役割等を紹介します。

名前	役割等
① 定式幕 <small>じょうしきまく</small>	客席と舞台を仕切る幕 国立劇場では、黒、柿色(茶色)、萌葱色(濃い緑色)の三色があり、開演の際に下手から上手に開かれる。
② 黒御簾 <small>くろみす</small>	演奏者が姿を現さないで演奏したり音を出したりする黒い壁に囲まれた小部屋 舞台の様子を見ながら音楽を演奏する。
③ 花道	舞台から客席後方まで延びている廊下のような道 舞台に通じる道や川、廊下などになってもう一つの舞台としても使われている。
④ まわり舞台	舞台上を丸く切り抜いた部分に俳優や建物を載せて回転させる。
⑤ せり	舞台を四角く切った部分で、俳優や大きな舞台装置を載せて、上下に動かすことができる。
⑥ スッポン	花道にあるせり スッポンから登場するのは人間でないもの(ゆうれいや動物など)
⑦ 揚幕 <small>あげまく</small>	花道の突き当たりにかかっている幕 幕には金属の輪がつけられ、そこに鉄の棒を通して吊られているので、開閉時には「チャリン」という独特の音をする。

作品の種類

時代物(じだいもの)

江戸時代よりも古い時代の武士や公家の世界を描いた作品。

中には「仮名手本忠臣蔵(かなでほんちゅうしんぐら)」のように、江戸時代に起こった事件に取材した作品でも、それ以前の時代に置き換えて書かれた作品もある。平安時代以前に取材した作品は、特に「王朝物」又は「王代物(おうだいもの)」とよばれる場合もある。

世話物(せわもの)

江戸時代の町人の生活取材した作品で、当時の現代劇をさす。特に身分の低い庶民の生活をリアルに描いたものは「生世話(きぜわ)」と呼ばれ、文化・文政年間(1804年～1830年)に活躍した4代目鶴屋南北(つるやなんぼく)の作品が有名。

所作事(しよさごと)

舞踊。題材を切り口に「獅子物(ししもの)」・「松羽目物(まつばめもの)」・「道成寺物(どうじょうじもの)」などの作品群に分類することもできる。

参考 独立行政法人日本芸術文化振興会
DISCOVER KABUKI (歌舞伎入門)
歌舞伎への誘い

https://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu/e-learning_english_kabuki.html
<http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/kabuki/jp/>

のうがく 能楽

「能」と「狂言」は、長い歴史をもつ日本の伝統芸能です。同じ舞台で演じられ、二つを合わせて「能楽」と呼んでいます。室町時代（14～16世紀）に、観阿弥（かんあみ）・世阿弥（ぜあみ）という父子が、「能」を現在へつなげるようなかたちへと大成させてから、六百数十年。「能」と「狂言」は、互いに影響を与えながら現代へと受け継がれています。

能

仮面や美しい衣裳をつけた人物が、笛や打楽器を使った器楽や、言葉に節をつけた謡（うたい）という声楽などに合わせて、せりふや舞によって物語を展開させる歌舞劇です。

主人公がかける「面（おもて）」は約60種類あるとされ、微動だにしないにもかかわらず、振り付けや「囃子（はやし）」と合わせることで豊かな感情を感じさせます。

狂言

人が交わす会話によって物語を展開する劇で、庶民の日常や民間説話を素材にしたユーモアのある喜劇です。

作られた時代の日常的な出来事を題材にし、登場するのもしどこにでもいそうな人たちがばかり。風刺や笑いを軸にし、人物を類型化したり、しぐさを大げさにしたりすることで、たくましい庶民の姿を明るく描いています。

現代の日本語で使われている言葉

現代の日本語で使われている言葉には、以下のような能楽に由来をもつものがあります。

【檜（ひのき）舞台】 檜で作られた能舞台に立つことへの憧れから、自分の腕前や姿を披露する晴れの場所のことをいいます。

【初心忘るべからず】 始めた頃の未熟な自分の姿を忘れるな、と世阿弥がその著書で説いた言葉ですが、現代では、始めたときの志を忘れるな、という意味で使われることが多くなっています。

・独立行政法人日本芸術文化振興会 能楽への誘い <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/noh/jp/>

ぶんらく 文楽

文楽とは、人形浄瑠璃のことです。江戸時代の初期に、操り人形と三味線演奏による語りものの浄瑠璃とが出会い、人形浄瑠璃が成立したと言われています。江戸時代中期に人形の目や口、指などが動くようになり、一人で動かしていた人形を三人が分担して操るようになったので、人間に近い表現が可能になりました。

【主遣い（おもづかい）】

胸部を支え、頭部を動かしながら、人形の右手も扱う演者

【左遣い（ひだりづかい）】

自らの右手で人形の左手を扱う演者

【足遣い（あしづかい）】

屈んだ姿勢で人形の足を扱う演者

文楽は、語り手である太夫（たゆう）と三味線弾き（ひき）、そして人形遣い（つかい）によって演じられ、これを三業（さんぎょう）と呼びます。

参考 ・独立行政法人日本芸術文化振興会 文楽への誘い <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/bunraku/jp/>

ががく 雅楽

雅楽は、上代から伝わる日本固有の音楽と1400年ほど前から順次朝鮮半島や中国大陸などから伝来した古代アジア諸国やシルクロードの芸能に基づき、または、その影響を受けて日本で熟成され、平安時代中期に完成し、原形のまま存在している世界最古の音楽です。

「管絃（かんげん）」、「舞楽（ぶがく）」、「歌謡（かよう）」の三つの形態があり、古来から皇室の典礼（てんれい）、御遊（ぎょゆう）などで奏されてきました。

現代の日本語で使われている言葉

現代の日本語で使われている言葉には、以下のような雅楽に由来をもつものがあります。

【打合せ】 京都・奈良・大阪の「三方楽所」が集まって演奏するとき、細かな演奏法の違いを調整するために、まず打楽器から約束事を決めたことからとされています。

【やたら】 「八多羅拍子」という、2拍子と3拍子の混合の特殊な拍子があり、演奏が難しく混乱しがちなことから、秩序がなくめちゃくちゃな様子をあらわすようになったといえます。

・独立行政法人日本芸術文化振興会 舞台芸術教材「雅楽」 <http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc22/index.html>

東京の伝統芸能

江戸糸あやつり人形

人形を多数の糸であやつる「江戸糸あやつり人形」は、1635年に江戸幕府公認となった「結城座（ゆうきざ）」が現代まで受け継いでいます。

17本以上の糸と日本式と呼ばれる結城座独自の構造をもつ「手板」を使い、日本ならではの実に繊細で、表情豊かな動きをします。

現在の座長は、十二代目結城孫三郎氏。

人間と人形の共演や、同じく江戸時代から伝わる「江戸写し絵」を組み合わせるなど、独創的な舞台空間を創り続けています。



【十二代目結城孫三郎氏】

八王子車人形

一人の人形遣いが車輪つきの箱「ろくろ車」に腰掛けて、前後左右と軽やかに人形を繰る人形芝居です。江戸時代の終わりから多摩地域の郷土芸能として親しまれています。

五代目の家元が活躍する八王子市の「西川古柳座」では、日本の古典文学からアメリカの童話を脚色した新作まで様々な演目が楽しめます。



【二人三番叟】

伝統・文化に関するイベント等

東京都江戸東京博物館 企画展「東京 150年」

1868（慶応4）年7月17日、江戸を東京と改める詔書が発せられ、東京府が設置されました。この時誕生した「東京」は、今年で150年の節目を迎えます。

維新の混乱の中からスタートした東京の街は、震災や戦災などによって幾度となく傷つきながらも、そこに暮らす多くの人々の尽力によって復興を遂げ、首都として発展を続けました。

本展では、東京という都市がどのような姿で始まり、そして150年の間にどのように変化をしていったのかを、写真や映像、そしてそれぞれの時代に製作された地図などから展覧します。また、首都としてのふさわしい姿と機能を求め、幾度も立案されながら完全な実施にはいたらなかった過去の都市計画にも着目し、そこに描かれた「幻」の東京についても紹介していきます。



銀座中央新聞社号外張出
1894（明治27）年頃 徳大寺公弘撮影
東京都江戸東京博物館蔵

会 場：東京都江戸東京博物館
 会 期：平成30年8月7日（火）から同年10月8日（月・祝）まで
 開館時間：午前9時30分から午後5時30分まで
 （土曜日は午後7時30分まで。8月10（金）、17（金）、24（金）、31日（金）は午後9時まで開館）※入館は閉館の30分前まで
 企画展開催中の休館日：8月20日（月）、27日（月）、9月3日（月）、25日（火）
 観 覧 料：一般 600円（480円）／大学・専門学校生 480円（380円）／
 中高生、65歳以上 300円（240円）
 ※（ ）内は20人以上の団体料金、消費税込
 ただし、8月10（金）、17（金）、24（金）、31日（金）の午後5時から学生・
 中高生は無料／一般・65歳以上は団体料金 ※要証明
 電 話：03-3626-9974（代表）

【テーマにおける引用・参考文献資料、写真提供】

- ・東京の観光公式サイトGO TOKYO ・東京都江戸東京博物館
- ・独立行政法人 日本芸術文化振興会
- ・DISCOVER KABUKI（歌舞伎入門）https://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu/e-learning_english_kabuki.html
- ・歌舞伎への誘い <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/kabuki/jp/>
- ・能楽への誘い <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/noh/jp/>
- ・文楽への誘い <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/bunraku/jp/>
- ・舞台芸術教材「雅楽」<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc22/index.html>

※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等がありましたら、右記担当へ御連絡ください。
 今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】東京都教育庁指導部指導企画課
 電 話 03-5320-6869
 ファクシミリ 03-5388-1733